

Libra | on

vol. **22**

<http://www.libra-sc.jp>

りぶらいおん

特集1：ひこ・田中氏講演会概要 「子どもの物語と私たちができること」



特集2：自動車文庫 「あおい号」紹介



● りぶらサポーター紹介 杉浦仁美




岡崎市図書館交流プラザ

図書館交流プラザ（愛称:Libra）は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ(LSC)は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。





ひこ・田中氏講演会 2012.3.31

「子どもの物語と私たちができること」

— 震災の後、何故みんな本を送ろうとしたのだろう? —

必要などころに必要なだけ

今日は、被災地から遠く離れた場所にいた私たち、という前提で話をさせていただきたいと思います。

私は地震を感じるとすぐにテレビを点けて、皆さんもご覧になったような風景をまのあたりにしました。阪神淡路大震災のときはにはなんとか歩いて三宮辺りにも入れましたけれど、遠方のこともあり、原発事故の推移なども見守りながら、寄付ぐらいしかすることないなあと思っていました。

うちは寄贈本も多いものですから、毎日何回も来る宅配業者から、物資の運搬が完全に寸断されているという話を聞きました。そんな状況の中で、本や絵本が果たして必要かという、やはり基本的には必要ではない。赤ちゃんのミルクがなくなったら大変だし、食料も水もなくなったら大変だけれども、別に本がなくても人間は生きていけるわけです。そりゃ多少寂しいかもしれませんが、本を送るのは後々でいいだろうなという感じで様子を見ていました。

そんなときに、名古屋の方で「子どもと見る風景」というサイトのイシマルヨシエさんという方が、現地に子ども本を送ることを始めましたというツイートをしたので目に入りました。

それで、イシマルさんに「どないして送るの?」と聞くと、ジョイセフという、海外の難民キャンプの妊産婦とか女性の方を支援するNPOが東北を支援することになって、物資の隙間にに入れてもらって送るということでした。単に送りたいという情熱に駆られて、

宅配業者に頼んでぼんぼん向こうの市役所とかに送りつけるのではなくて、必要などころに必要な物資を送るだけの発想ですね。

自分がしたいと思うことと相手がして欲しいと思うことが一致したときにそれをすればいいし、それが一番効果的な結果を生むだろうと思いました。そして、被災地の避難場所へ送る活動ですから、いずれは収束し、あとは図書館でほしいというリクエストがあるところに、届けるという形に切り替えたりもしました。

結果的に送られたものがどう使われたか、どう喜ばれたか、それはあまり気にする必要はないだろうなと思います。必要などころに届いたのであれば、被災者の皆さんが避難場所から退去された場合、本たちが全部捨てられたって全然構わない。そういう気軽な気持ちで関わるのがいいのではないかなと思いました。



「絆」への違和感

去年は「絆」という言葉がブームになりました。私はその言葉を聞いたとき違和感があったのです。絆という言葉の意味は、「より深いつながりを持っている者同志のこと」。例えば家族・友人・恋人、そういう人たちとのつながりを表現して

います。「離れがたい強いつながりを持っている人との間に絆がある」といった言い方をします。

ですからこの「絆」という言葉は強力で、安心感もあり気持ちのいい言葉でもあるし、とても美しい言葉です。ただ同時に、この言葉が家族・親子・友人という関係以外にまで広がって、今回のように使われることに、私はとても危ういものを感じています。

同じ野球チームが好きという絆でしたら、野球が終われば切れます。フィギュアスケートの村上佳菜子が大好きといっても、それで集って、他のことで意見が違って関係はないですよ。これはかまいません。

しかし今回の「絆」というのは、もっと抽象的でもっと大きくて、そうした限定性が明確ではないんですよ。だからまるで「日本存亡の危機に日本人全員が絆を強くしよう」みたいな雰囲気になってしまいます。それはやっぱり、ちょっと支援とは問題が違うのではないかなという気がするのです。そういう強いつながりは、つながらない人やつながりたくない人を明確にしますから、彼らを排除する論理にも簡単にすり替わってしまいます。

そんなに離れがたい強い絆が、支援やボランティアに必要なかということを、今回の災害と原発事故をきっかけに、考えてみてもいいと思います。「絆」という言葉を使ったり、思いを抱かなくても支援はできるわけです。「あ、うち今余裕あるから要るところにまわそう」、ぐらいで支援活動ができれば一番いいと思います。

何も東北に限らず、支援を求めている

人やところは世界中にいつでもいくらでもありますから、それぞれができる範囲でそれぞれの支援したい場所に、そこが必要とするものをしていけばいいと思います。例えば私は、かなり面倒くさがり屋の人間なので、収入の1パーセントを自分の支援したいところに寄付しています。



障害者自立支援の経験から

私は大学に入ったところから、障害者の自立支援活動を35年ぐらい続けてきました。施設や親元から独立して自由に暮らしたいと望んでいる身体障害者たちの、願いを叶えるために具体的に動き、障害者の働く場を確保する、そうした活動です。

そのとき、支援者側の想いが強すぎて、障害者は自立せなあかんとか、障害者差別をなくすためにはこうせなあかんという「善意」を抱くようになってしまいます。だけどそれは根本的には当事者である障害者の発想ではないのです。障害者自身から聞いて、彼らがしてほしいことをサポートする、そうした考え方を基本とする必要があるのを学びました。

例えば、車椅子を初めて押したときに、「なあ、介護されてて、いやなのはどんなこと？」って聞くと、即座に「お前みたいに上から話しかけるこっちゃ」と言われました。私は、そのとき本当に目からうろこでした。「ああ、その人の視点に立たなあかんのや。子どもやったら子どもの視点に、そんな単純なことにも自分は気づいてなかったのか」と思って、それから車椅子の人に話しかけるとかは、必ず座ってしゃべります。

障害者と介護者みんなで集まって、いろんな問題点を語る中で納得してきたの

は、介護者というのは障害者にとって道具であるということです。つまり、介護猿とか介助犬とか盲導犬とかと同じだという発想です。誰だって必要なこと以上はして欲しくないわけですから、これしてあれしてと言われるまではいっさいやらない。こうしたほうがいいかなと思って命にかかわるとき以外はこちらからは何も手を出さない。要するに、彼らに必要なでないことをするのは、余計なお世話なのです。

「絆」ではなくて、必要なときだけサポートする。自分が必要なときは、遠慮なくサポートしてもらおう。終われば解散。そういうかたちでお互いが付き合っていたほうが、よりたくさん支援が生まれると私は思います。

よく電車で子どもが席を譲ろうとしたら、断る年配者を見かけます。子どもが、一生懸命勇気を振り絞って言うてるのに、「いいです」と断られたら、すごく傷つくと思うのね。だから、「私、まだ55やのに」とか、「そんな老けて見えるのかしらん」と思っても、お礼を言って喜んで座ってください。するとその子は次もまた「替わろうかな」という気持ちになります。そういう程度の、軽い関係性の積み重ねが、本当に強い支援を生んでいくと私は思っています。

なぜ本を送ろうとしたのか

さて、震災の後なぜ本を送ろうとしたのか。避難所にいる子どもがどういう状態に置かれているかは、ちょっと想像すればわかります。本も漫画もゲームもアニメもテレビも何もない。しかも外でもなかなか、遊べない。外で遊ぶのが好きじゃない子もいるだろう。彼らも、まわりつくのは親がしんどいだろうな、ということぐらいわかります。

大人たちはとても忙しいし、将来のことも考えなあかんし悩んでるし、なおかつ子どもを不安がらせないために、にこにこして大丈夫だと言わなあかん。する

と、めちゃめちゃ疲れますよね。もし本であれば、子どもが一人で読むか、一人で読めない年齢だったら、読み聞かせにしたって一人の大人で10人そこの子どもをつなぎとめられます。

そうすると親御さんが少しだけでも子どもと離れる時間ができます。子どもが夢中になって本を読んでいる間、親は何かができます。少しは休めるかもしれない。本だったら、子どもは自分自身で時間をつぶせるといったんです。

でもね、体育館みたいな埃っぽいところに埃っぽい本が来てもうれしくない。心がうきうきしません。そう思いませんか？だから、良書や悪書といった選書はしないで、とにかくきれいな本を送ろう。それを読むか読まないかは子どもが自分で決めればいい、というのが私の考え方でした。

要するに子どもの本を被災地に送ることの第一義は、親がちょっとでも時間をとれるようにすることであり、子どもを楽しませるのは第二義でした。それに、被災にあった子どもを幸せにするほどの力は本にはありません。ほんの一時楽しめればいいのです。



「物語」を届ける

大事なのは物語です。私は物語というものを携えていないと人間は非常に生きにくくなると思っています。いつでも物語をそばに携えていて、困ったときの神頼みみたいに、物語をいつでも使いたいときに使えるように、自分のスキルを磨いておいた方がいいと思っています。

だからそのためのメディアが、本であっても漫画であってもアニメであっても構わない。物語はフィクションですか

ら、現実から逃げられるんですよね。30分でも1時間でも2時間でも、ハリポッターだったら4時間くらい、そこに逃げ込むことができるんです。

逃避は駄目だという人もよくいますが、私にはそれが理解できません。しんどいときは、どんどん逃避すればいいと思います。逃げられるときは逃げた方がいいんです。その場合、子どもたちが物語の中で一時の安らぎを得るために、本は非常にいい役目を果たしたんだろうなと思っています。

それで、これがまたおもしろいことなんですけれども、子どもに絵本や本をとくと、ワーツと反応があったんですね。それが、50代以上の人に歴史小説をといても、誰の反応もないんです。読んでいる暇はないかもしれませんが、やっぱり大人だって物語に逃げたいんじゃないかなと、私は思っていましたけれど。

そして避難所がだんだんなくなることによって、本を送るのは、ひとまず終わりました。ただし、そのことによって何が起きているかということ、地元の本屋さんがなかなか復興できない。みんながただで本を送っちゃったために、地元の本屋さんの本が売れなくなることもありました。だからこういう支援というのには両面があって、送ればいいというだけではないのも含めて考えていったほうがいいと思います。

児童書を読もう

子どもであろうと大人であろうと、生きている社会は同じです。大人の小説は常にその時代の声を反映していて、基本的には児童書も同じなのに、児童書は文学とは別のものとみなされています。そのために、多くの大人たちが児童書を読み逃しているという現状があります。

この図書館はとても素敵な建物ですけども、やっぱり、子ども図書室とこっちが離れていてもったいないな、というのが私の実感です。子どもも10才くら

いになると、子どもの本だけ置いてあるところなんか絶対行きたくないんです。ガキっぽいから。かといって大人の方に行くのもちょっとビビル。せっかく図書館が好きになった子でも、そのあたりの年齢で足が遠のいてしまいます。大人もヤングアダルト本なんかを読むと、すごく役に立つ本が多いのにもったいない。

へたに「思春期の子供を持つ親へ」みたいな本を読むより、児童書を読んだ方が、よほど今の子どもたちや若い人たちが置かれている状況や、何を考えてるかということが見えてくると思います。そして、なおかつ自分にとってもリフレッシュの機会にもなります。

40年子どもの本を読んできて損だと思ったことは一度もありません。子どもの本は、自分がもうわかってると思ってることを、また一から丁寧に解きおこして順番にそのプロセスを示してくれます。そうすると、わかりきっていたはずのことが、もう一度自分の栄養になる。そんな経験を、子どもの本から得ています。

だから、もしあんまりそういうことをされていない方には、ぜひ今日、子どもの本を借りていってくださいと誘惑したいと思います。

「ふしぎなふしぎな子どもの物語」

昔も今も一日の時間は同じなのに、本以外にも物語を提供するメディアが増えているのですから、読書時間が減るのは自然な現象です。ですから、読書をしてほしい思いがあふれすぎ、他のメディアを非難したり排除したりするのが良い結果を生むとは思いません。むしろ、物語が届けられるのなら、どんなメディアでも構わないと思います。

この本は、90年以降に書かれたり作られた、本とゲームと漫画とアニメといった様々なメディアにのせられた子ども向けの物語の、主だったところをすべて読み、プレイし、それらの中にある共通項を抽出してみた本です。

そこには、それまでの子どもの物語に定石としてあった、子どもが様々な冒険や苦難を乗り越えて成長していく、大人たちがサポートをしながら育っていくという成長物語が、90年以降そういう成長を回避する、減ってきているという現象がみられました。子どもたちにヒットしている物語がそういう傾向にあるということは、子どもたちが、今の私たちという大人へと成長することに対する喜びも動機も感じ取れなくなっているのではないかと、というようなことを調べた本です。

ちゃんと大人になることのメリットを、われわれは伝えられているのか。大人になることは本当にメリットがあるのか。メリットがなくても大人にならなければならないとしたら、その理由は何なのか。私たちはもう一度ゼロから考え直してみてもいいんじゃないか。やみくもに「成長しろ、大きくなれ」と言っても、その言葉は恐らく今の子どもや若者には届いていないだろうということを書いていますので、もしご興味があれば読んでいただければと思います。

そして、できれば、この本の中で取り上げている子どもの本も読んで、先ほど申しましたように、ご自分をリフレッシュしていただければ幸いです。本日はどうもありがとうございました。



※次ページの図書一覧表は、ひこ・田中氏が「読売新聞」で紹介した(2010年4月から2012年3月まで)オススメYAのリストです。当日、資料として配付されました。

はじまりの日	ボブ・ディラン
青いイルカの島	スコット オデル
アグリーガール	ジョイス・キャロル・オーツ
園芸少年	魚住直子
ロビンソン漂流記	デフォー
はみだしインディアンの物語	シャーマン・アレクシー
あのころはフリードリヒがいた	リヒター
機関銃要塞の少年たち	R・ウェストール
ファイヤーガール	トニー・アボット
スターガール	ジェリー・スピネッリ
フランケンシュタイン	メアリー・シェリー
自分が好きになっていく	高塚人志・五木田勉
トム・ソーヤーの冒険	マーク・トウェイン
夜行バスにのって	ウルフ・スタルク
アウトサイダーズ	S.E. ヒントン
バターサンドの夜	河合 二湖
あしながおじさん	ジーン・ウェブスター
青い麦	コレット
ヒトラー・ユージェントの若者たち	S.C. バートレッティ
かべー鉄のカーテンのむこうに育って	ピータ・シス
ボーイ・キルズ・マン	マット・ワイマン
消えたヴァイオリン	スザンヌ・ダンラップ

反撃	草野たき
ヘブンリープレイス	濱野京子
きみ、ひとりじゃない	デボラ・エリス
わたしは、わたし	ジャクリーン・ウッドソン
はせがわくんきらいや	長谷川 集平
ヒルベルという子がいた	ペーター・ヘルトリング
チョコレート・ウォー	ロバート・コーミア
チョコレート・アンダーグラウンド	アレックス・シアラー
翼のある猫	イザベル・ホーフィング
ともしびをかかげて	ローズマリ・サトクリフ
深海魚チルドレン	河合二湖
チロル、プリーズ	片川優子
チューリップ・タッチ	アン・ファイン
コブタのしたこと	ミレイユ・ヘウス
海の島	アニカ・トール
サリーの帰る家	エリザベス・オハラ
希望（ホープ）のいる町	ジョーン・パウアー
ぼくの心の闇の声	ロバート・コーミア
「あの日」のこと	高橋 邦典
TUNAMI	高嶋 哲夫
ジャストインケース	メグ・ローゾフ
エリン、12歳 カンペキの味	ローラ・ラングストン

まちなかイベント紹介

Okazaki みんなの夏祭り

みんなで「つくる」、みんなが「楽しむ」、みんなが「つながる」

日 時：8月3日（金）15:00～21:30
 場 所：籠田公園、康生北交差点～伝馬交差点の道路
 主 催：Okazaki みんなの夏祭り実行委員会
 後援予定：岡崎市 / 岡崎商工会議所 / 岡崎市観光協会
 NPO 法人 21世紀を創る会・みかわ
 参加団体：41 団体（6/18 現在）
 問合せ：Okazaki みんなの夏祭り実行委員会事務局
 NPO 岡崎都心再生協議会 担当：和泉
 TEL 0564-25-0080 FAX 0564-47-7808
 Email machi-ok@221ent.com
 http://www.okazakimatsuri.jp



かごだ公園緑化プロジェクト みんなで芝生を植えよう 2回め

日 時：8月25日（土）8時～10時（雨天26日（日））
 場 所：籠田公園ハトの像前
 共 催：岡崎市公園緑地課・NPO 岡崎都心再生協議会

参加費：無料
 申込み：締め切り 8月10日（金）
 問合せ：NPO 岡崎都心再生協議会
 TEL 0564-25-0080 FAX 0564-47-7808
 Email machi-ok@221ent.com
 http://www.okazakitoshinsaisei.com/



7月・8月 りぶら生涯学習ガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名	料金	問合せ先
7月1日(日) 14時～16時	ワールドレクチャー(中国) 人・くらし・文化・歴史を学ぶ	電話で 申込み	りぶら国際交流センター 23-3148
7月5日(木)～	内田修ジャズコレクション展示室 特別展示VOL.9「名鑑を訪ねて～CBS/SONY～」	無料	中央図書館 23-3111
7月5日(木)10時～12時半	男の料理教室	1回 1200円	NPO法人食育推進ネットワーク 58-8069
7月6日(金)・7日(土) ・8日(日)18時半～	Libra TANABATA Jazz Live	全自由席 2500円	図書館交流プラザ 23-3100
7月6日・20日・27日(金) 10時～11時半	笑いヨガ教室	500円	村山千夏 090-2262-5792
7月6日・13日・20日(金) 14時～16時	ことばの教室・ポルトガル語(初心者向け)	電話で 申込み	りぶら国際交流センター 23-3148
7月7日(土)～24日(火)	第15回 図書館を使った調べる学習コンクール 入賞作品展	無料	中央図書館 23-3111
7月7日・8月18日(土) 14～16時	龍村式ヨガセミナー	1レッスン 2800円	キラキラCLUBおかざき 090-9935-4459
7月8日(日)10時～12時	りぶら いきものみつけ隊 初回のみ500円		りぶらサポータークラブ 23-3114
7月8日(日)13時～14時半	ボランティア茶話会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月8日(日)14時～16時	カルチャーサロン(切り絵)	電話で 申込み	りぶら国際交流センター 23-3148
7月8日(日)	りぶら講座No.10 子ども音楽講座 「絵本と歌を活用した楽しい譜読み」 りぶら講座No.11 美ウォーキングと健康ダンス	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月10日(火) 10時～11時	愛知教育大学附属岡崎小学校 入試対策セミナー 無料説明会	無料	内閣府NPO全国家庭教育支援 センター45-5802
7月10日(火)・24日(火)	ゆかた着付け教室 ①10時～ ②13時半	500円	牧野 55-4930 (FAX55-4750)
7月14日(土)10時～12時	平成24年度市民カレッジ 知ってお得!! 食事で健康づくり	70人 抽選	文化活動推進課0564-23-3110
7月14日(土)13時半～16時	りぶらまつり準備会①	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月15日(日)	りぶら講座No.12 つるで籠を編んでみよう りぶら講座No.13 福沢諭吉のエピソード りぶら講座No.14 初めてのボールルームダンス	400円 無料 無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月17日(火)14時～16時	生涯学習はじめましてサロン	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月19日(木)14時～16時半	ハッピースマイル 笑いヨガ	1000円	山森操子 090-9930-0595
7月22日(日)10時～11時半	りぶら講座No.15 鴎外の名作「高瀬舟」誕生のかげに柴田顕正	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月24日(火)・28日(土) ・29日(日)8月6日(月)	夏休み読書相談 対象:中学3年生までの子どもとその保護者	無料	中央図書館 23-3111
7月28日(土) 10時～12時	平成24年度市民カレッジ 循環型社会とエネルギー	70人 抽選	文化活動推進課 0564-23-3110
7月29日(日)10時～11時半	りぶら講座No.16 簡単に身につく四字熟語	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
7月29日(日)11時～13時	みんなで作ろう! フィリピン・スイーツ!	はがきで	りぶら国際交流センター23-3148
7月29日・8月5日(日) 13時～17時	災害時 通訳ボランティア養成講座	電話で 申込み	市民協働推進課 23-6644
7月29日(日) 13時半～	ビジネス支援セミナー(小・中学生対象)こんな シゴトもあるんだ! 君たちのための「ハロー! 会計」	はがきで 申込み	中央図書館 23-3111
7月29日(日)14時～18時	Libra 演劇ワークショップ	5000円	図書館交流プラザ 23-3100
8月3日(金)10時～11時半	笑いヨガ教室	500円	村山千夏 090-2262-5792

日時	イベント名	料金	問合せ先
8月3日・10日・17日(金)	ことばの教室・中国語 14時～16時	無料	りぶら国際交流センター23-3148
8月4日(土)・5日(日)	Libra 子ども遊びワークショップ 10時～15時	無料	図書館交流プラザ 23-3100
8月4日(土)・5日(日)	こども一日図書館司書体験 10時～15時	はがきで	中央図書館 23-3111
8月5日(日)10時～12時	りぶら いきものみつけ隊 初回のみ500円		りぶらサポータークラブ 23-3114
8月5日(日)	りぶら講座No.17 カラオケ健康講座 りぶら講座No.18 地球温暖化防止講座	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月5日(日)14時～16時	インスピレーションあふれるメキシコ	無料	りぶら国際交流センター23-3148
8月9日(木)10時～12時半	男の料理教室	1回 1200円	NPO法人食育推進ネットワーク 58-8069
8月11日(土)10時～12時	平成24年度市民カレッジ 赤ちゃんや子どもの気持ちわかるかな??	70人 抽選	文化活動推進課 0564-23-3110
8月11日(土)13時半～16時	りぶらまつり準備会②	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月17日(金) ①14:00 ②16:30 ③19:00	映画『一枚のハガキ』岡崎上映会	前売り1000円 当日1200円	映画センターちゅうぶ三河事務所 0564-32-3916
8月19日(日)14時～16時	カルチャーサロン(太極拳)	無料	りぶら国際交流センター23-3148
8月21日(火)	りぶら講座No.19 大人のピアノ りぶら講座No.20 シェドウボックス(3Dアート) りぶら講座No.21 プリザーブドフラワー講座 りぶら講座No.22 初めての俳句 りぶら講座No.23 もしもの時に役立つノートづくり りぶら講座No.24 天然素材で芳香ディスプレイ りぶら講座No.25 ゴム動力の飛行機づくり りぶら講座No.26 ラテンカリグラフィー講座	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月21日(火)14時～16時	生涯学習シンクタンク	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月23日(木)～26日(日)	第10回図書館まつり	無料	中央図書館 23-3111
8月23日(木)14時～16時	シネマ・ド・りぶら上映会『黄色いリボン』	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月24日(金)10時～16時	夏休み！癒しの親子イベント～虹の広場～	入場無料 体験500円～	ナチュラルセラピーネットワーク 虹のたね080-5048-1131
8月25日(土)15時～	レコードヒストリー・3Dサウンド体感セミナー 一般1000円・中学生以下500円		図書館交流プラザ 23-3100
8月25日(土)10時～11時半	りぶら講座No.21 アメリカンフラワー&粘土工芸	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
8月26日(日)14時～	交響曲ジャングル大帝《2009改訂版》 CD制作ワークショップ	1000円	図書館交流プラザ2階総合案内 23-3100
団体名・イベント名	日時	問合せ先	
童謡・唱歌の会 はなみずき	月3回金曜日 10:00～	アクア事務局 080-3615-1349	
アロマヨガ	隔週月曜日 10:00～	おかざきLOHASの会 柴田 090-6597-5588	
おとなが楽しむ朗読の集い	第2・4火曜日 18:30～20:00	まみむめもクラブ 築 25-5197	
気功太極拳	毎週木曜日 10:00～	日本健康太極拳協会 岡崎鶴の会 21-1658	
楊名時八段太極拳	毎週火曜日 10:00～11:30	村松 58-3396	
日本画研究会	毎週木曜日 14:00～16:00	稲森 52-0719	
3Bふれあいピクス	隔週火曜日 10:30～ (未就園児親子)	森 55-2274(TEL・FAX)	
Photo翔	月1回金曜日 18:30～21:00	藤田 45-7797	
時事英語学習会	毎週土曜日 9:00～	杉浦 43-6812	
Vivaひろば	毎月第2・4土曜日 10:00～20:00	Vivaおかざき!! 鈴木 090-4798-5446	
集まれ！音楽あそび隊。	毎月第1日曜日 ①10:00～ ②11:00～	NPO法人 音楽療法サポートセンター	
ひざ掛けづくり	毎月第2金曜日 10:00～14:00	市民のきもち研究会 森 090-8136-1680	
シニアのかけ込み寺	毎月第2金曜日 10:00～15:00	市民のきもち研究会 森 090-8136-1680	



りぶら中央図書館情報

図書館で自習をする方へ

中央図書館では、多くの高校生にご利用いただいております。特に試験期間中には、大変多くの方が利用し、館内が混雑しております。図書館は、生活に必要な資料の提供を行うことが主な目的の公共施設であり高校生以外の一般の利用者も多いため、新入生が入学した4月から5月にかけて市内の各高校へ図書館利用のマナーの周知をお願いしています。

館内の混雑が予想される市内の高校の試験週間で重なる土日祝日は、自習の方へ座席の整理券を配布しています。整理券配布日は、図書館ホームページやティーンズ用のメルマガでお知らせします。

図書館のルールを守ってください。

☆禁止事項☆

- ・お話、おしゃべり、音の出る行為は禁止です。隣の方と相談しながらの自習は禁止です。携帯電話はマナーモードにしてください。
- ・図書館内では飲食はできません。水分を補給することができますが、キャップ付きの容器や水筒などを利用し、かばんなどの中にしまうなど、汚損防止のため、机の上に置かないでください。
- ・図書館内では音の出る歩き方は禁止です。席とりのために走らないでください。荷物での席とりは禁止です。昼食等で1時間以上席をはずす時は荷物を持って出てください。
- ・ゴミは持ち帰ってください。

レファレンス事例集

平成 24 年 7 月に東公園に「日本多忠次郎」がオープンします。
東公園から続く「道根往還」についても調べてみませんか。

質問	道根往還（どうねおうかん）について調べたい
回答	以下の8点を紹介しました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 『新編岡崎市史』（AO233 / シ）総集編 20、近世 3、民俗 12 ■ 『〔岡崎地方史研究会〕研究紀要 第 19 号』（AO233 / ケ） ■ 『回顧』（AO233 / カ）岩月栄治 / 著 ■ 『リバーシブル第 31 号～第 40 号』（A050 / リ）40 号→写真多く・ルート図あり ■ 『男川 男川学区郷土誌』（AO233 / オ）岡崎市立男川小学校 / 編→子ども向け / ルート図 ■ 『郷土館』（AO050 / キ）(No. 104,105,111,114,128) ■ 『秋葉古道と愛岐地方の旧河道』（A682 / ア）中根洋治 / 著 風媒社 ■ 『市政だよりおかざき』平成 11 年 6 月 1 日号（特集記事：ルート図あり）
プロセス	キーワード「道根往還」「道根道」 郷土標目より「道根往還」関連資料を紹介
参考資料	道根道ともいう。東公園入口付近の「欠の三本木」（欠町足延）から東へほぼ一直線に進み、「鍛冶屋の五本松」（額田町鍛埜）まで行く山道で、作手に抜ける往古の重要な道の一部。（中略）江戸時代末期から明治の中程までに、木炭の需要が増加し、乙川上流流域の木炭が大量に鍛冶屋に集められ、道根往還を馬によって運ばれた。（中略）明治 25 年（1892）に乙川沿いに県道が出来ると次第に廃れていったが、昭和 10 年（1935）ごろまでは人の往来は絶えなかった。 「新編岡崎市史 20（総集編）」より

りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館2階の視聴覚ブースでは、ビデオやDVDなどの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブ化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも？！

紹介映像⑰

「我がまちの歴史と文化を支える
～六ツ美悠紀斎田保存会～」

放送年：平成5年(1993年)



今年は6月3日(日)に開催された六ツ美悠紀(ゆき)斎田お田植えまつり。大正4年に執り行われた大嘗祭(だいじょうさい)以来、地域の人々によって、祭事としての保存活動が続けられてきました。今では岡崎市の無形民俗文化財に指定されています。少し先ですが、平成27年には、大嘗祭から100周年を迎えるんですね。

この映像では、まつりが子どもからお年寄りまで、地域全体で次の世代に引き継がれていく様子が描かれ、歴史と文化を守り育てることの大切さが伝わってきます。

現在、かつての跡地に、六ツ美地域の歴史や文化財を展示紹介する機能を備えた地域交流センター「悠紀の里」の建設が進められていますよ。

「悠紀の里の整備」サイト

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/menu8233.html>



私の一冊 vol.16

『孤高の人』 新田 次郎：著 講談社



今泉 みどり (いまいずみ みどり)

図書館の資料提供サービス班で勤務。仕事は資料購入、図書館講座や図書館まつりの開催、障がい者サービス、2Fテーマ展示の企画などを行っています。所蔵のない図書(できれば最近)の寄贈もお願いしていますので、ぜひご協力を！

今から30年以上も前に出版された本ですが、私の1冊は新田次郎の『孤高の人』です。この本は、大正から昭和にかけて単独行の登山家として名を馳せた実在の人物、加藤文太郎の生き方を小説にした作品です。登山がまだ一般的ではない時代に、単独行による北アルプス冬山縦走を行い、社会人登山家のさきがけとして活躍するも、最後は、皮肉にも後輩とパーティーを組んだことで、冬山で遭難死を迎えるという内容です。

当時、社会人となって登山を始めた時期に、山仲間からこの本を紹介されました。頑固で不器用な性格の主人公が、山でも職場でも人間関係に軋轢を生みながらも、成長する姿が書かれたこの作品に、自身の思いと重ねて共感しつつ読んだ覚えがあり、今でも記憶に残る1冊となっ



ています。この作品を読んで以降新田次郎のファンとなり、『強力伝』『八甲田山死の彷徨』『槍ヶ岳開山』など、山岳小説や時代小説を読むようになりました。

ちなみに今年6月6日は新田次郎生誕100年です。絶筆となった未完の小説『孤愁-サウダーデ』を次男の藤原正彦さんが受け継いで書き上げ、この秋に出版といううれしい話題もあります。記念すべき年に、再度、新田次郎の作品を読んでみませんか。



走る図書館「あおい号」

「みどり号」から「あおい号」へ

「あおい号」という移動図書館があるのをご存知でしょうか。岡崎市の図書館から遠い地域に住んでいる方のために、図書館の本を積み、市内の各地を巡回する自動車文庫、それが「あおい号」です。

岡崎市には現在2台の自動車文庫があり、子ども向けの絵本・紙芝居・図鑑・児童書から、大人向けの小説や実用書など、新刊本も含め約2,500～3,000冊の本を積んで走っています。現在は毎月1回、市内の小学校47校、養護学校1校、団地等6箇所計54箇所を巡回しています。



始まりは昭和50年に遡ります。昭和46年に明大寺町に図書館が移転したと、子どもたちへのサービスに力を入れて取り組んだ結果、貸出冊数がそれ以前の図書館に比べ20倍に増えました。しかし利用者の大半は、図書館の近くに住む方に限られていました。その対応策として、市民センターに図書室を設けるとともに、昭和50年に、特に交通の不便な地域にお住まいの方に利用してもらえるようにと、最初の移動図書館「みどり号」によるサービスが始まったのです。

その後、昭和58年に「みどり号」が老朽化のため引退すると、「あおい号」と名前を改められた新しい車両が登場し



ました。平成17年には、車椅子や身体障害者の方向けに、電動リフト付きの車両に変更されました。その際に、馬場のぼるさんに「11ぴきのねこ」シリーズの絵をあおい号の扉絵にすることを快諾していただき、可愛いイラストが車体に描かれました。

さらに平成20年に現在のりぶらに中央図書館が移転してからは、岡崎市内の公立小学校全校を巡回するようになり、遠隔地の市民の方に図書を届けるという役割の他、学校支援という形で、岡崎市の子どもたちの読書活動を推進するという、大きな役割を担っているのです。

あおい号には、1台につき通常運転手さんの他2名の職員が乗務します(大規模校には2台で対応)。本の返却・貸出などの作業は、中央図書館のようにコンピュータ化はされておらず、その場で、手作業に近い状態で行われています。雨の日も風の日も、休むことなく運行し、遠隔地の方や小学校の子どもたち、楽しみにしているみんなのために頑張っています。



今日は「ミステリーデー」!!

あおい号に載せる図書は、中央図書館1階レファレンスカウンター奥の「あおい号書庫」に収められ、他の図書とは独立した形で管理されています。蔵書の数には違いはありますが、中央図書館や市民センターなどの地域図書室と同じく、人気の高い本も新刊本も、随時加えられています。その中から、担当者の皆さんが工夫をしながら選書をし、毎月違ったラインナップで各巡回地に届けています。



時には「ミステリーデー」と銘打って、コンテナにミステリー本をたくさん積んでいくなど、テーマを決めて選書することもあるそうです。また、先生からの依頼を受けて、環境をテーマにした本など、子どもたちの調べ学習に適したものを選んで持っていくこともあります。

車一台に、図書館の役割を凝縮させて巡回地に向かうため、担当者自らが、より本を知るよう心がけ、ドラマや映画にも敏感になり、スタッフ同士の情報交換も積極的に行うなど、高い意識を持って作業に当たっているのです。

これからもみんなのために

現在の小学校の図書室には選任の司書も入り、蔵書もたいへん充実してきましたが、それでも子どもたちにとって、本を積んで走ってくる「あおい号」は特別な存在です。クラスごとに決められた図書係が、クラス分30冊を選ぶ姿はとても印象的です。友達の顔を思い浮かべながら、どんな本を借りたら喜んでもらえるか、どんな本ならみんなで話題にできるか、そんなことを思いながら本を選んでいました。

どの巡回地でも、図書館の利用カードがあれば借りることができます。毎月15日の「市政だより」に翌月の巡回日程が掲載されています。お住まいの近くの巡回地をご利用ください。



りぶらサポーター紹介 vol.2

りぶらサポータークラブ副代表 杉浦仁美

りぶらサポータークラブの運営委員を順次紹介します。

第2回目は、サポータークラブ副代表の杉浦仁美さんです。「りぶら いきものみっけ隊」「暮らしの学校」「Viva おかざき!!」など多方面で活躍され、子どもから大人まで、さらには外国の方々にも、岡崎市民活動の輪が広がるような活動をしています。

LSC 以前のボランティア活動は？

コンピュータ関係の仕事をしているのですが、今のように簡単にネットにつながらない時代に、IIC（インターネット・イノベーター・クラブ）という市民活動団体を立ち上げ、インターネットでなにかやってみたいという人たちと一緒に、HPの作成の勉強や情報交換・サポートをする活動をしていました。

岡崎に新しい図書館ができるということで、市民の代表として、市から図書館交流プラザ運営協議会準備会の参加依頼があり、2年間会議に参加していました。「りぶら」のオープン前、中心市街地活性化のために、人が歩いて巡る地図『りぶらぶらリマップ』を、有志の仲間で作成しました（第3版好評販売中）。

LSC ではどんな活動を？

主に、LSCの会議などで司会をしています。副代表としては、LSC代表山田さんのやりたい・やってみたいと言われたことをできるように、協力していきたいと思っています。

また、『りぶら いきものみっけ隊』の隊長をしています。月に一回、りぶら周辺を「りぶらの庭」として歩きながら、いきものの観察や調べ学習をしています。7月は『チリメンモンスター2』、8月は『ビンドウを仕掛けてみよう』を計画しています。

ちりめんじゃこは、分別前のものを和歌山から取り寄せます。ビンドウは、ペットボトルにメダカのエサを入れて、伊賀川に仕掛けます。夏休みの自由研究にピッタリですよ。

いろいろな活動を通して、子どもたちが自分たちの住んでいる街の今をみてほしいと思います。例えば、外来種の『ツルニチニチソウ』など、以前はあまり見かけなかったのに、車を走らせていても

増えたことに気づきます。たぶんガーデニングが増えて派生していると思われます。引っこ抜いてもなかなか根が抜けません。

このように、本来いなかったいきものが増えていることは、見つけていないとわかりません。子どもたちが、今を見ることが重要です。10～20年かけて変化していくものに気づいてほしいし、自然の変化を感じてほしい。大切なことだけど、すぐにはわからないことを子どもたちに伝えていきたいですね。

今年のテーマは『りぶら いきものみっけ隊』の実行委員会を立ち上げて、LSCから独立した組織にしていくことです。『りぶら いきものみっけ隊』は、環境省「いきものみっけ」の団体コミュニティランキング（いきものを報告した数）で全国第2位です。環境省生物多様性センターの『いきものみっけ』HPに掲載されています。開催日の案内や隊員の募集について、詳しくはLSCのHPを見て下さい。

LSC 以外の活動は？

【暮らしの学校】JR岡崎駅の近くの文化教室で、岡崎で観られる野鳥の紹介。

【Viva おかざき!!】日本人と外国人が協力し合って、笑い合っている岡崎を目指す活動（まだまだ、初心者です）。

ボランティア以外に興味のあることは？

仏像が大好きです。特に奈良のお寺が大好きで、月一回ほど奈良へ行っています。仏像は、じっくり見ると時代や作者によって一つ一つ違いがわかり、とても



Libra i on

おもしろい。一番好きな仏像は、奈良の海龍王寺にある「十一面観音菩薩立像」です。

また、岡崎の滝山寺には、運慶仏の観音菩薩・梵天・帝釈天立像があります。運慶作の仏像は、一説には日本に31体しか残ってなくてとても貴重なので、興味のある方にはおすすめです。近世の彩りをしてありますが、作風から、伝承どおり運慶一派の作と認められています。滝山寺の宝物殿は、300円で入館できます。

プライベートデータ

【行きつけのお店】

一休：とんかつ屋さん

最近このジンジャエールがウィルキンソンの辛口に変わりました。

【ベスト映画】『シェルブールの雨傘』

【宝物】自然・家族

【最近ハマっていること】いきもの探し

【行ってみたいところ】

豊田の湿原（個人所有で勝手に入れません）

【自慢できる場所】たっぷりな地毛

りぶら近辺のお店紹介

くつろぎギャラリー キッサ とどまん

不思議な空間へ

りぶら一階の西側出入口から外に出て、視線を左、岡崎公園の方に移すと、すぐそこに「キッサ とどまん」の看板が見えます。一見すると、古風な佇まいの一軒家ですが、中はくつろぎの空間として、店主秋山あゆみさんがこだわりを持って始められた喫茶店です。

玄関では靴を脱いで入るため、普通のお宅へお邪魔している感覚です。一階は主に椅子席、二階は床の間のあるお座敷もあり、違った趣きがあります。どちらも、時間を忘れていつまでも寛いでいたくなる、そんな場所です。

おすすめのメニュー

特にオススメなメニューは、「わたなべの茶 掛川の里セット」です。二人分700円で（※お菓子の注文が別料金で必要です）美味しい緑茶をセルフで3杯以上いただけるため、ゆっくりおしゃべりしたい方には最適です。また、この夏は『とどまん』オリジナルの「アイス・カフェ・オレ」も外せません。社会福祉法人『オンリーワン』の経営する、お菓子工房『ぐれいす』の焼き菓子と一緒に召し上がりください。食事はありませんが、りぶら南側の「ほっこちゃんのほっこりべんとう」さんのお弁当は持ち込みOKです。



くつろぎギャラリー

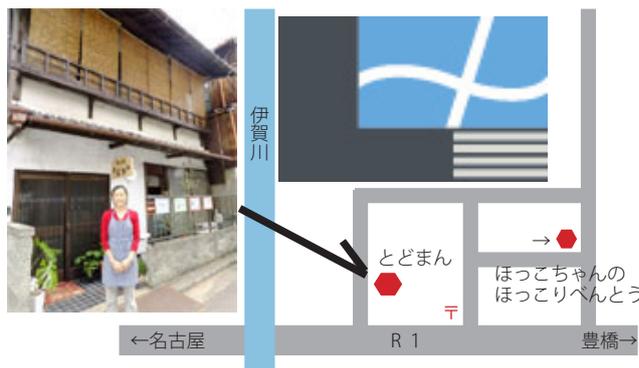
秋山さんがこの場にお店を開いたのは、偶然のご縁からでした。喫茶店を始めようと思い、適当な場所を探していたところ、空き家になっていたこの家を発見。大家さんのご厚意で中の設えの多くもそのまま活かされ、前の居住者が趣味で描かれていた絵も飾られています。それが、ギャラリーと名前がついている所以です。ギャラリーは、一般の方も使用することが可能ですのでご相談ください。



市民の皆さんの居間として

「お子様連れ、シニアの方、会社帰りの方、外国籍の方など、様々な立場や年齢の方々が集う交流の場として、市民の皆さんが寛げる居間として使用していただければ嬉しいです」と言われる秋山さんは、オーストラリア・中国に在留された経験をお持ち、英語・中国語も堪能です。

りぶら利用者の皆さんも、打ち合わせやおしゃべりの続きを、「とどまん」でしてみるのもよいかもかもしれませんね。一階西出口から徒歩1分。ぜひ一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。



営業時間 am11:00 ~ pm7:00
 定休日 水・日曜日
 岡崎市康生通西4丁目47 電話 080-3670-3968
 ※ グループでの予約受付中 (日時応相談)